

会 議 報 告 書

会議名	第2回（仮称）第2次21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会
日 時	平成21年11月12日（木）午後7時00分～8時50分
場 所	市役所 2階 本館会議室
出席者	市 只木秘書政策室長、鈴木政策班長 政策班 赤羽主幹、和田副主幹、杉山策定委員 別紙名簿のとおり

1 開 会(政策班 和田副主幹)

開会及び資料の確認

2 あいさつ(会長)

3 検討事項(進行:会長)

○矢板市の現状と将来の見通しについて

次第裏面により和田副主幹が説明
各自 テーマについて意見を発表

(会長)

- ・エコを前面に出したまちづくり
- ・林業の振興 → CO₂の削減

(委員)

- ・職場が違うので矢板のことでわからないことがまだ多くある。
- ・これだけいろいろとそろっている場所はないが、生活に直結してない。
- ・総合的に組み合わせ特徴をもったまちづくりを行うべきだ。

(委員)

- ・高齢会社会 → すでに高齢社会
- ・人口減により市場が停滞、労働力人口が減る。人口の集中化
- ・資源を循環させていく。
- ・ますます、国際的に人、もの、金の交流が活発化

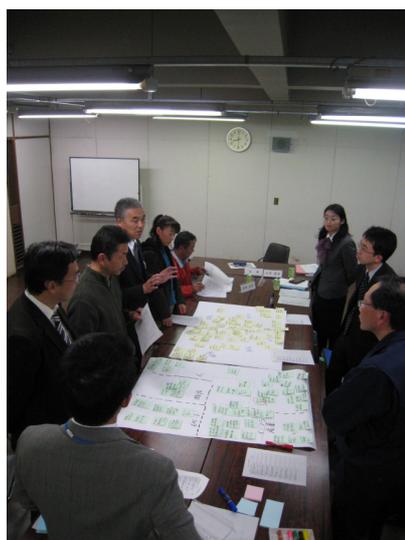
(委員)

- ・自然環境がとても豊か → 現状は通過する街である。留まってもらう工夫。
- ・長峰公園も有名になってきた。観光をもっと頑張る。PA等から立ち寄れる工夫。
- ・農業も盛んである。もっと子供たちが触れ合えるようにすべき。

(委員)

- ・道の駅、エコハウスは、住と食の地産地消がテーマ。
- ・これからは省エネから、創エネの時代である。豊富なバイオマス資源。
- ・地区によるCO₂削減を図っている日本で唯一のところである、つつじが丘の例もあるとおりにエコタウン矢板を進める。

(委員)



- ・内陸型工業が成功しているところであり、交通の便もよい。これからもっとグローバル化に対応すべき。
- ・高速が普通にあり、恵まれている。
- ・これからは、これらのインフラを活かし、PRすべき。例えばゴルフ場を通した矢板の知名度は強い。

(委員)

- ・エコと対比し産業の成長も必要である。企業は現在効率・能率を上げることを進めている。企業の都合による人口の流出により、一層高齢化が進み、税収減。農業の担い手不足。地元商店ではなく量販店に流れる人々、。
- ・しかし、高原山をはじめとする豊かな自然環境等の財産はある。現在部分的にしか行われていない市内のこれらをいかにPRしていくか、いかにニーズにマッチさせるかが大切。

(委員)

- ・アクセスの良さが矢板はとても良い。これをもっと活かすべき。
- ・学区が自由になり、学童保育のあるところに子供が集まる傾向がある。反して、家に家族がいても、まわりに友達がいないため、近所で遊べる子供仲間が作れない。
- ・子供たち、親たちがもっとネットワークを作れる仕組みが必要。

(委員)

- ・個の能力を伸ばしていくことが大切。
- ・農業の担い手はあまり要らない。農業の大型化を進めるべき。少人数で済む。
- ・大手の量販店ではなく、ファーマーズマーケットのように地元にお金が落ちる仕組みを作っていけば、市内でお金が回っていく。
- ・山縣さんのところで自家発電にて電気がこのあたりで一番早く点いた。資源は豊富にある。



2つのテーマについて、付箋紙によりまとめ作業

今後の進め方

12月16日に開催したい。アンケート結果とともに、内容を煮詰める。今回のものは要約し、皆さまにお配りしたい。

8 閉会 20:50

《現状と将来について》



《良いところ悪いところ》

